

 本年度の重点目標		(1) 主体的に学び、表現する力を伸ばす指導 (2) 関係機関と連携した研修・相談の充実 		
項目	担当	具体的方策	留意事項(実施時期、回数、連携相手等)	
目指す子ども像に向けた教育活動 主体的に学び表現する子の育成	・教育課程 ・ICTを活用した学習支援 ・キャリア教育 ・読書活動の充実	小 学 部 ・学校や児童の実態に合った教育課程編成をする。 ・外部講師を活用し、地域社会との関わりを通じた授業を実践する。	・教務部や他部と連携し、学びの連続性を考慮した編成を行う。 ・外部講師との連携では、児童の実態を伝え、授業の内容や目標の共通理解を図る。	
		中 学 部 ・生徒一人一人のコミュニケーション方法の確立に努め、コミュニケーション指導の充実を図る。	・部内で研修を実施する。一人一人のコミュニケーション方法を整理し、教室に掲示して視覚化し、職員間で共有する。 ・年間を通して各授業で自己選択・自己決定の機会を計画的に設定する。	
		高 等 部 ・生徒一人一人に合わせたICTの活用をし、分かる授業の実践で、学習内容の定着を図る。	・全ての高等部職員がICTを活用するよう啓発する。 ・ICTを活用した授業を部で共有する機会を作る。 ・アンケートを利用し、ICT活用状況を保護者に発信する。	
		潮 風 教 室 ・就労する上で必要な力について「人間関係力」「作業力」などの複数の領域、項目に分けて整理したチェックリストを作成し、個別に実施する。 ・チェック結果を生かして個別の指導計画を作成、活用しながら、キャリア教育の充実を図る。	・チェックリストは、年度始めに原案を作成する。学期ごとに領域や項目を見直して修正し、年度末に最終決定する。 ・チェックは、学期始めに実施する。ケース会議で個別に目標設定や学習内容等の検討を年間2回行う。	
		教 務 部 ・自立活動を主とした教育課程において、各教科と自立活動の目標設定に至る手続きの違いを踏まえ、児童生徒の実態に応じたよりよい教育課程の編成をする。 ・各教科や各教科等を合わせた指導において、学習指導要領の各教科の指導目標の達成に迫る授業を行うために、各教科で育成する資質・能力を明確にする。	・全体研修で児童生徒の障害の状況に応じた教育課程編成についての共通理解を図る。 ・各部の教育課程検討会において、教育課程編成表の時数や時間割等の検討を行う。 ・校内研究を通して、チェックシート等を用いて学習指導要領の教科の段階を踏まえた授業実践や学びの連続性を実現するための引継ぎシートの検討を行う。	
		教育情報部 ・児童生徒がICTを活用しやすい環境を整え、学習活動の充実を図る。	・職員にアンケートを実施し、ニーズに合わせたICT機器及び周辺機器を購入する。 ・アプリやICT機器の使用方法について夏期研修を行ったり、ICT機器の操作マニュアルを作成したりする。	
		進路指導部 ・進路に関する学習を通して、児童生徒の長所の把握をし、進路選択の充実を図る。	・生活に即した体験的学習や校外学習において、校内研究で作成したキャリア教育を視点とした段階表を活用し、一人一人の発達段階に応じて求められる力を考える。	
		図 書 部 ・マルチメディアデジ図書を活用した読書活動の充実を図る。 ・授業で活用しやすく探しやすい本の配架を行う。	・新転任者対象としたマルチメディアデジ図書の活用に関する研修を年度始めに実施する。 ・図書館内に新聞や季節にちなんだ図書を常時、面出しする他、毎月1回、各部にブックカートで図書を届ける。絵本の配架をテーマごとに変える。	
		友 助 達 け を 合 う 尊 重 し 重 子 し ・交流及び共同学習 ・人権教育	山 嶺 教 室 ・田口高等学校との交流を年間計画に位置付け、お互いを知る機会を設定する。 ・インクルーシブ教育の基盤をつくる。	・年度始めに田口高等学校の各学年主任と交流時間、内容について話し合う機会を設ける。 ・お互いの生徒が、自然な雰囲気の中で会話ができるよう、体育や音楽など、協同で学習できる内容を検討する。
		指 導 部 ・人権週間に生活委員会が主催する人権集会を実施する。	・人権週間に生活委員会が主催する人権集会を実施する。	・児童生徒の事態に合わせ、友達の良さを見つけ、いじめ防止につながる活動を設定する。
健を康意識する安全な生活 ・防災教育 ・安全教育	指 導 部 ・とよまつ学防災の日を実施し、避難訓練や防災学習、一斉下校訓練などに取り組む。	・とよまつ学防災の日の学習内容は、豊橋市の防災担当と連携を取り計画する。また、避難訓練と関係性をもって学習できるものにする。		
	寮 務 部 ・寄宿舎防災学習会において、避難生活体験や防災クイズ、防災バッグの活用法について学び、防災に関する知識を身に付ける。	・年1回、とよまつ学防災の日の週に実施する。 ・クイズやプリント学習を通して、体験した内容を振り返ることで学習が定着するようにする。		
	保 健 部 ・学校事故防止に向けた啓発運動の充実を図る。 ・緊急時における適切な対応の実現を目指す。	・校内で発生した事故やヒヤッパットの情報を集約し、職員間で情報共有と再発防止策について周知を行う。 ・学期始めに職員向けの初動訓練を行い、緊急時の対応を周知する。 ・緊急時の対応について、学校全体の動きや各部の動きを明確に適切に対応できるように検討する。		
目指す教師像に向けた取組 高い専門性をもつ教師 高い意識をもつ教師 信頼される教師	・専門性向上のための研修 ・校内支援、地域支援	研 修 部 ・職員のニーズを把握し、校内研修の充実を図る。 ・校内研究の改善と充実を図る。	・研修内容を決定し、講師との日程調整を行う。年間に全体研修9回、自主研修6回、ミニ講座を3回実施する。 ・研修実施後は反省アンケートを活用し、テーマ設定や内容について客観的に評価する。 ・校内研究の時間を年9回設ける。研究の充実を図るため、今後の実施方法について検討する。	
		自 立 活 動 部 ・自立活動アドバイザーを中心に、自立活動に関する研修や相談を積極的に行う。 ・関係機関と連携し、自立活動に関する研修、相談の充実を図る。	・自立活動アドバイザーと連携して、自立活動学習会を年間9回実施する。 ・豊橋市子ども発達センター、豊橋あゆみ学園等と連携し、夏季休業中に自立活動講習会(全体)、自立活動研修会(任意)を実施する。 ・アンケート等でニーズを把握し、校内外の相談を有効に活用できるように調整する。	
		教 育 支 援 部 ・校内での相談の流れを職員へ周知し、挙げられたケースについては、複数の職員で改善策を探る。 ・継続的に支援ができるように、専門性の高い教師につなぐとともに、相談内容を整理して校内外の職員研修に活かす。	・年度始めの部会で各部の相談担当者を案内し、相談があるごとに部主事をはじめ関係職員や外部の関係者と連携する。 ・支援の前後に分掌内や関係者で助言をまとめ、職員の夏季研修や支援部だより等で紹介する。	
	管 理 職 ・人権意識の向上	・全職員に人権についてのチェックシートを配布し、自己点検を行う。その結果をもとに面談を実施する。 ・人権に関する研修を実施する。	・年1回、自己点検チェックシートをもとに、各自の人権意識について点検を行う。それをもとに、部主事や教頭と面談を行う。 ・外部講師を招き研修を行う。	
信 頼 さ れ る 教 師	総 務 部 ・働きやすい環境作り ・不祥事防止	・共用する場所や物品の整理整頓を行い、物の有効活用ができるようにする。	・月1回程度総務部で物品の管理(データ化やラベリング)や整理整頓を行い、文書や掲示等で分かりやすく示す。	
	管 理 職 ・多忙解消に向けた業務改善に取り組む。 ・チェックシートの活用や事例をもとに、不祥事防止の意識の向上を図る。	・分掌業務のスリム化を分掌主任と連携し検討する。 ・ICTを活用し、業務の効率化を図る。		
学校関係者評価を実施する主な評価項目		(1) 一人一人に合わせたコミュニケーション指導の充実 (中学部) (2) 関係機関と連携した自立活動に関する研修・相談の充実 (自立活動部)		